



会社名 J.フロント リテイリング株式会社  
 コード番号 3086  
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也  
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室  
 TEL 03-6865-7621

**2023年11月度 J. フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)**

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	11月度	下期累計	11月度	下期累計
百貨店事業	10.3	11.3	10.9	13.8
SC事業	11.7	9.9	17.1	17.7
デベロッパー事業	0.5	19.2	2.5	21.7
決済・金融事業	▲11.3	▲8.7	▲11.3	▲8.7
その他	▲26.7	▲16.8	▲25.3	▲16.2
連結合計	5.6	8.1	10.1	13.7

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。  
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。  
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。  
 4. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- ・ 11月度の売上高は、前半に気温が平年より高く推移したことにより秋冬物衣料品へのマイナス影響があったものの、中旬以降は気温低下により防寒衣料などが回復したことに加え、ラグジュアリーブランド、化粧品が引き続き好調を持続したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年11.1%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同10.9%増となった。
- ・ 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年172.5%増(客数同226.3%増、客単価同▲16.5%減)となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年3.4%増であった。
- ・ なお大丸松坂屋百貨店の12月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、気温の上昇によるファッション商品へのマイナス影響が見られたものの、化粧品、ラグジュアリーブランドが好調を持続し、訪日外国人売上も加速していることなどから、14日までの累計で対前年7.5%増(対2019年度7.7%増、対2018年度2.1%増)、国内売上高は同0.2%増(対2019年度4.4%増、対2018年度▲1.0%減)で推移している。免税売上高は対前年176.4%増(対2019年度46.3%増、対2018年度37.8%増)で推移している。

2) SC事業

- ・ 11月度のテナント取扱高は、周年を迎えた渋谷・仙台・心斎橋でのイベントの開催、秋の改装効果などにより、全店舗計(既存店)で対前年21.5%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- ・ デベロッパー事業は、J.フロント建装が、前年の百貨店改装工事好調の反動により減収となったものの、パルコスペースシステムズ、J.フロント都市開発が増収となり、全体では増収となった。
- ・ 決済・金融事業のJFRカードは、ポイント費の増加などによって減収となった。
- ・ その他は、卸売業の大丸興業が、産業資材は増収となったものの、電子部品の不調等により減収となり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室  
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621  
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

## 2023年11月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

### 1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	11月度		下期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	24.9	31.7	39.7	45.7
大丸 梅田店	8.0	8.5	10.3	19.7
大丸 東京店	14.0	11.1	18.7	16.5
大丸 京都店	12.0	8.2	16.2	8.4
大丸 神戸店	4.1	11.6	8.5	11.6
大丸 須磨店	3.0	▲0.0	1.3	▲1.1
大丸 芦屋店	5.5	6.1	1.9	4.8
大丸 札幌店	23.3	10.1	18.7	10.3
大丸 下関店	▲10.3	▲7.4	▲8.4	▲3.9
松坂屋 名古屋店	4.2	9.2	7.3	9.2
松坂屋 上野店	8.5	24.5	7.8	25.0
松坂屋 静岡店	▲2.6	12.1	▲1.0	10.1
松坂屋 高槻店	▲2.4	6.7	▲0.8	8.7
店 計	11.0	11.6	14.7	15.7
法人・本社等	12.5	-	▲0.2	-
大丸松坂屋百貨店合計	11.1	11.6	14.1	15.7
うち商品売上高	10.8	-	13.8	-
うち不動産賃貸収入	17.8	-	20.9	-
博多大丸	11.1	10.7	13.0	10.3
高知大丸	▲5.4	▲7.0	▲2.2	▲5.5
百貨店事業合計	10.9	11.4	13.8	15.2

### 2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	11月度	下期累計
紳士服・洋品	▲13.9	▲13.7
婦人服・洋品	19.4	23.1
子供服・洋品	3.1	4.9
その他の衣料品	3.3	0.1
衣料品計	13.9	17.2
身 回 品	10.1	11.9
化粧品	26.6	28.0
美術・宝飾・貴金属	▲2.7	9.7
その他雑貨	▲3.8	▲1.4
雑 貨 計	8.7	16.4
家具	▲0.3	▲6.6
家電	▲4.5	3.4
その他の家庭用品	18.4	15.1
家庭用品計	13.8	9.5
生 鮮	2.6	4.5
菓 子	7.6	9.9
惣 菜	9.8	7.7
その他食料品	▲4.8	▲5.9
食料品計	4.2	5.4
食堂・喫茶	13.5	17.8
サービス	13.9	12.8
そ の 他	7.6	▲6.4
合 計	10.8	13.8

### 3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、気温の低下により中旬以降に秋冬物衣料品の動きが出てきたことに加え、ラグジュアリーブランドが売上を牽引した。紳士服・洋品は、ジャケット、コートなどが売上を伸ばしたものの、品番移管の影響により対前年マイナスとなった。身回品では、インバウンド需要が多いアクセサリ、ハンドバッグ、旅行用品が好調を持続した。雑貨では、化粧品が主要ブランドを中心に大きく売上を伸ばした。食料品では、菓子・惣菜が好調を持続した。食堂・喫茶は、外食需要の増加などにより大幅増となった。

## 2023年11月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

### 1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	11月度	下期累計
札幌PARCO	23.0	27.9
仙台PARCO	14.6	11.3
新所沢PARCO	1.4	▲6.2
浦和PARCO	15.1	9.1
池袋PARCO	21.8	13.3
PARCO_ya上野	28.8	31.7
ひばりが丘PARCO	9.8	6.9
吉祥寺PARCO	28.7	23.3
渋谷PARCO	59.0	66.2
錦糸町PARCO	25.0	21.0
調布PARCO	15.5	9.6
松本PARCO	▲1.2	3.3
静岡PARCO	▲3.3	▲5.2
名古屋PARCO	14.3	23.5
心齋橋PARCO	24.6	46.9
広島PARCO	18.8	13.8
福岡PARCO	19.0	23.8
全店計	17.1	17.8
既存店計	21.5	22.2

※注) 1. 津田沼PARCOは、2023年2月末日をもって営業を終了しました。  
2. 既存店計には、津田沼PARCOの前年実績値を含みません。

### 2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	11月度	下期累計
衣料品	10.3	8.1
身回品	16.1	18.0
雑貨	30.4	30.8
食品	1.3	1.2
飲食	8.4	12.5
その他	35.6	40.8
合計	17.1	17.8

### 3. 営業概況

- ・ 11月度のテナント取扱高は、周年を迎えた渋谷・仙台・心齋橋でのイベントの開催、秋の改装効果などにより、全店舗計（既存店）で対前年21.5%増となった。
- ・ アイテム別取扱高では、需要が高まった旅行を含むその他が対前年35.6%増、ショップ数が増え売上も伸長しているキャラクター雑貨を含む雑貨が同30.4%増となった。